

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1971000128
法人名	社会福祉法人 ぎんが福祉会
事業所名	グループホーム 雀のお宿
所在地	〒 400-0105 山梨県甲斐市下今井1730 電話番号 0551-28-7575

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価確定日	平成19年9月1日

## 【情報提供票より】平成19年7月1日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成10年10月1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	13人	常勤	2人	非常勤	12人	常勤換算	8.2人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2	階建ての 1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 1000 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年7月1日 現在

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	63歳	最高	96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	敷島クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年8月13日

童話に出てくる「雀のお宿」のような古風な門構えで2階建のホームである。敷地に一步入ると大きな樹木に草花が咲き、緑の中の生活に心地よさを感じた。入居者は屈託のない笑顔で職員と語らいの時間を過ごしている。2階は障害を背負った若者たちの養護施設と繋がっていて、祖父母と孫のようにソファーに座り雑談している様子が人間同士の共存共生、いたわりと思いやりで家族らしい生活のあり方を垣間見た。また、職員のゆとりある支援が、さり気なく親子のようでもあり、理念として掲げた「その人らしい生活に寄り添い、安心した尊厳ある暮らしを保障する」ことが現実のものとして確立されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は、外部評価は施設の資質向上に欠かせないという認識を持っている。また、ホームの改善すべき点は直し、評価をバネに職員会議で話し合い、質の高い介護ができるよう努力している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者や職員は、外部評価は施設の資質向上に欠かせないという認識を持っている。また、ホームの改善すべき点は直し、評価をバネに職員会議で話し合い、質の高い介護ができるよう努力している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の自治会、消防の役員、行政担当者、入居者の家族会役員、運営者と職員で運営推進会議を行い施設の資質向上に努めている。地域の行事は住民と入居者の出逢いで理解を深め、人間としての思いやりを共有する大切な役割を果たすものとのことから、施設側から進んで地域へ外向き、地域との親睦を図るよう心がけている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 親と離れて暮らす家族にとって、ホームでの生活は気になるものです。月に一度のお便りには伝達事項のほか、入居者の近況報告も記入し、こと細やかに暮らし振りをお知らせして安心と信頼を深めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) クリスマス会や野菜の収穫祭のお誘いを保育園に出している。小学校の運動会にも参加したり、ホームはいつもオープンで、地域住民とのふれあいを大切にしている。核家族で失われている祖父母のあり方、優しさを次代を担う子供達に伝える意義も兼ねている。

## 2. 調査報告書

事業所名: グループホーム 雀のお宿

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位の暮らしを尊重し「その人なりの生活に寄り添い 安心した尊厳のある暮らしを保障する」というホーム独自の理念に基づきケアサービスの実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を道標として仕事に携わっている。毎月の職員会議に理念を掲げ共有を図っている。業務日誌にも理念が印刷され、ホームとして理念を大切にしている様子が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が作った野菜の収穫祭に、近所の保育園を招待したり、小学校の運動会へ招待を受けたりし、子供とのふれあい、交流は盛んである。目の輝きと元気がでるので僅かな交流でも進んで出向くように心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	マンネリ化した日々外部評価は施設の資質向上に欠かせないと考え、ホームの改善すべき点は直し評価をバネに職員会議で話し合い質の高い介護ができるよう努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議で、地区の民生委員、家族会、老人会や施設長と職員の参加で、幅広い話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのお便りを行政の福祉課にも届けている。行政担当者が進んでホームに出入りすることはないが、福祉関係者と近所の方には利用者の理解を深めて頂き、地域密着型として一歩でも近づくように心掛けている。	○	利用者が日常生活を営む上で地域住民との関わりが重要です。積極的に利用者と保育所や小学校の児童達との交流の場を増やすためにも、行政にも協力をいただき「ふれあいの場」が増えることに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の保険請求と併せて介護計画の見直し、お便りや金銭出納のお知らせを報告している。特別な用件は細やかに電話連絡をしている。面会に来た家族にはその都度、利用者の健康状況等をお伝えし安心して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族には何でも気づきを書いて頂く意見箱を玄関に設置してある。面会時は職員が気軽に声をかけ対応し家族の希望に添うよう細やかな配慮に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は交代制で無理のない勤務体制で、職員の異動もすくない。利用者の笑顔や冗談から、馴染みの職員がいることによる安心と信頼、職員との親近感が伺えた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は介護に必要な実践者研修に積極的に受講している。グループホーム協会の勉強会や口腔ケア講習なども受けている。研修後は、参加した職員が職員会議で発表し、学んだ事を共有し実践につなげ、ホームの質向上に努めている。	○	介護の仕事に携わり自分なりに勉強し資格をとりたいという前向きな職員もいるので、職員の意向等を把握しながら、勤務体制等も考慮し、職員のスキルアップを支援して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所のグループホームと交流をしている。クリスマス会、収穫祭などを大勢で楽しんでいる。また、職員同士の交流もあり、同様の悩みや相談もできる。	○	他のグループホームとの交流も継続する中で、ホームの良いところや改善点の把握や改善策などを見出し、ホームとして、さらに質が高まることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が家庭訪問を行い、生活環境や状況の把握に努めている。入居後は、お互いの不安解消と相互理解を深めるため家族との連絡を細かく取り合っている。	○	入居後、間もなくの間は、誰でも環境の変化に戸惑うものです。1週間程度の観察入居などを取り入れてみると利用者も職員も無理なく落ち着いて生活や仕事に携われ、家族の安心も深まるので、実現の可能性について検討して欲しい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の細やかな気づかいや思いやりに度々感心させられるとのこと。また、職員は、利用者が大変な時代を生き抜いた先輩を手本としており、人間同士のお付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	娯楽について利用者の意向に添って行っている。トマトの収穫を喜んだり、テレビを楽しく見たりと、自由に生活を楽しんでいる様子が伺えた。また、絵画や書道の作品も個性豊かに展示しており、日常生活の中から個々の残存能力を活かす取り組みも伺えた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	早番、遅番の勤務交代は申し送りノートを活用し、申し送りを受けた職員のサインと捺印が押され、細やかな伝達がノートに記入されている。介護計画も離れて暮らす家族の意見を取り入れ、職員との話し合いで作成している。何でも気軽に話せる管理者で、職員は改善やアイデアを遠慮なく言える体制である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直し家族の要望を聞き入れて作成している。また、状況変化に応じ適宜計画も変更している。	○	介護計画の見直しは職員の判断だけでなく、時には医師の診断も取り入れるなどし、その後に検討会議等で話し合い、計画を見直し、利用者の残存能力を活かした計画の変更・作成ができるよう取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望に添い無理のない対応を行っている。利用者は敷地内にあるデイサービスセンターに出掛け仲間づくりや交流をしている。デイサービスセンターに看護師がいるので、利用者の健康状況に応じ診察して頂き心強い。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同系列の病院がホームの近くにあるので心強い。緊急時は時間に関係なく診察が受けられる。利用者のかかりつけ医には希望に応じて家族同行と職員対応を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合などは、家族と医療機関スタッフの連携で早期対応に心掛けている。また、家族の心境を理解し終末期の対応も会議で話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋に入る時の職員の声掛けや日常会話などから、利用者のプライバシーへの配慮が伺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、食後や温かな陽気で眠くなれば、それを拒まず軽い睡眠をとって頂くようにしている。食事時間も特に制限せず、本人のペースで時間をかけて残さないように職員が声をかけながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼が近づく料理の音と美味しそうな匂いがホーム内に漂う。会話をしながら畑で採った野菜を食べたり楽しそうに味覚を共有していた。お粥の人もいて料理の味、色彩、摂取カロリー等への細かい気配りが伺えた。後片付けも入居者が進んで行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の希望に合わせている。入浴を嫌う利用者には、入浴時間記入の札や脱衣籠等で入浴への意欲を誘う工夫を行っている。また、微熱があるときは健康と安全の為、入浴を休むよう理解して頂くことがある。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれのバックアセスメントを活かした生活を送っている。また、音楽療法や書道、絵画 手芸のボランティアがホームに来訪し楽しみごとを提供してくれる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は庭園風の広いホームの敷地内で自由に行動していた。また、職員の勤務体制にもよるが、できるだけ買い物や公園などの散歩、市内の行事には進んで参加し、利用者の要望に添える要支援を心掛けている。	○	職員の勤務体制などを工夫する中で、利用者の日々の希望や要望(買い物や外出)ができるだけが叶えられるよう期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	旧家を改築した純日本風な建物で庭園を兼ね備えた施設で、広い玄関は開放的で利用者は違和感なく我が家のように出入りしていた。居室も開放され窓から入る緑の風が心地よく感じた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常事態に備えてのマニュアルと連絡網がわかりやすい場所に掲示してある。災害が発生した時は近所の方の手助けが不可欠となるので、自治会、消防団等には特に協力をお願いしている。	○	地域の協力を得た特別な訓練はしていないが、緊急時の避難訓練は利用者と職員の機敏な誘導を要するので、消防署を中心に、地域住民の協力のもとで、定期的な訓練の実施に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養バランスシートに摂取した水分とカロリーなど細かく記入されていた。配膳された食事を残さないように話を交え全量たべるよう職員のさり気ない心配りが伺えた。高齢者は脱水症状をおこす危険があるので、水分補給には特に気をつけている様子が伺えた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には庭で咲いてる花を飾り、季節行事の七夕飾りも短冊に願いを書いて飾り、季節感を楽しんでいる。大きな窓から、さるすべりのピンクの花が明るく見守っているようだった。トイレや浴室の段差もなく静かな引き戸で開閉し易くなっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自慢のご主人のお仏壇を部屋に置き、手芸の作品を飾り、自分らしい生活空間が作られている。和風と洋風の部屋があり各部屋を間違えないよう入り口にカーテンやリース飾りで工夫を凝らしていた。		